



学童保育指導員として

東彼杵町図書室横にある学童保育にここはうすでは、毎日およそ50人の小学生が放課後を楽しく過ごしています。そこで指導員として約20年にわたり、児童と向き合い続ける須賀さんにお話を伺いました。

「町内で学童保育の動きが始まった頃から、友人の誘いで手伝うようになりました。何年経っても、子どもたちとの関わりは飽きることがなくて面白いですね。子どもの素直さや賢さ、底知れぬ想像力に驚かされ、大人の方こそ日々学ばせてもらっています」

子どもとの関わり

「意思表示や感情表現がまっすぐだからこそ、子どもたち同士ぶつかることもよくあります。自分を出すことは決して悪いことではないけれど、“集団の場でみんなが心地よく過ごすためにはどうすればいいのか” 考えて行動して、やり直して、学童保育はそうやって社会性を学んでいく場でもあります。大人が主導して引っ張っていくというよりは、タイミングをみて必要な時にサポートできるよう、細やかな見守りを心掛けています。

いつでも子どもたちに『ねえねえ聞いて!』と言ってもらえ

る、『この人に話してよかった』と思ってもらえるような、気持ちを受け止められる存在でありたいです」



「子どもたちと過ごす時間が一番楽しい」と須賀さん。

「おかえり」の時間

「低学年の児童は、学校までお迎えに行きます。放課後は心身ともにホッとゆるむ時間。靴を履き替えて出てくる瞬間の表情や姿勢、動きなどにはその子の気分や体調が表れていて、“今日は楽しかったみたい”、“ちょっと疲れているかな”ということが読み取れます。どんな時にもまずは『おかえり』の声掛けで温かく出迎えるのが私たちのモットーです」

東彼杵のひと

vol.9

須賀 由美子 さん

東彼杵町出身・在住
読み語りボランティア クジラっ子代表
学童保育にこにこはうす 指導員



読み語りの活動

須賀さんにとって、もう一つの子どもたちとの接点が「読み語りボランティア クジラっ子」です。こちらも20年ほど活動されています。

「本を読み上げるだけでなく、脚本にオリジナル要素を加えたり、紙人形劇や影絵仕立てにしたりと、より物語の世界を楽しんでもらえるような演出を工夫しています。5月の春の読書フェスティバルでは、町内のこども園や学童保育の子どもたち約100人が集まり、お話を楽しんでくれました。現在メンバーは6人、次の舞台である秋の読書週間に向けて練習中です。地元の民話を携えて町内の小中学校を巡ります」



演出の流れを細かく記した資料。メンバーで何度も練習を重ねます。

地元のことばと物語

「クジラっ子で大切にしているのが、地元のお話と言葉です。町内に伝わるたくさんの民話を、できるだけ東彼杵の言葉・方言で語るようにしています。実は年に1度、高齢者向けの“いきいきサロン”でもお話を披露させていただくのですが、子どもとご年配の皆さんでは反応が全く異なります。なじみのある地名や方言が出てくる懐かしい民話に、いろんな思い出が蘇ると喜ばれるんです。私たちにとっても生の“そのぎ言葉”に触れ、知らなかった地元の歴史に触れる貴重な機会になっています。

これからもメンバーと共に、町内のいろんな年代の方と関わりながら、地元の物語と言葉の魅力を次世代の子どもたちに手渡していきたいと思います」

読み語りボランティア

クジラっ子

メンバー
募集中!

現在子どもさんとの関わりがないという方も大歓迎です。興味がある方は、東彼杵町図書室までお問い合わせください。

